

診療所に係る JANIS の公開情報の仕様について

薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 戦略 2. 1 【方針】

○「院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS)」の対象施設や対象項目の見直し・拡大などにより、200 床未満の小規模な医療機関及び診療所における薬剤耐性 (AMR) の動向の把握に努め、医療分野の薬剤耐性 (AMR) の動向調査を強化する。特に世界的な広がりが問題となっている耐性結核及び耐性淋菌感染症に対する全数把握及び薬剤耐性 (AMR) 真菌の把握を検討する。

○「院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS)」の対象施設や対象項目の見直し等により 小規模な医療機関や高齢者施設入所者における薬剤耐性 (AMR) の動向の把握に努める。

1. 現状

検査部門の JANIS の公開情報については、入院検体については 200 床以上/未満、外来検体については全集計対象で公表しているが、診療所に係る情報は含まれていない。

※ 2023 年の 1 月から 9 月まで毎月データを検査部門に提出した診療所は 316 施設であり、12 月までのデータも同様の施設数になることが見込まれる。

2. 対処方針 (案)

2024 年に JANIS の公開情報 (検査部門) において、診療所からの提出データを公表する。以下の対象において、診療所からの提出データを公表してはどうか。

1) 対象検体の選定：

本会議に先立ち、2023 年 1～3 月の期間にデータを提出された診療所 (n=454) から得られた検体を集計した結果、分離菌の多かった尿・呼吸器系・膣分泌物の 3 検体 (全体の 78.7%) を対象とする。

検体種	件数
尿	24,960
呼吸器系	12,425
膣分泌物	8,521
便	5,581
耳分泌物	3,796
膿創部	1,851
皮膚	671
血液	407
眼分泌物	136
髄液	0

2) 対象菌株の選定：

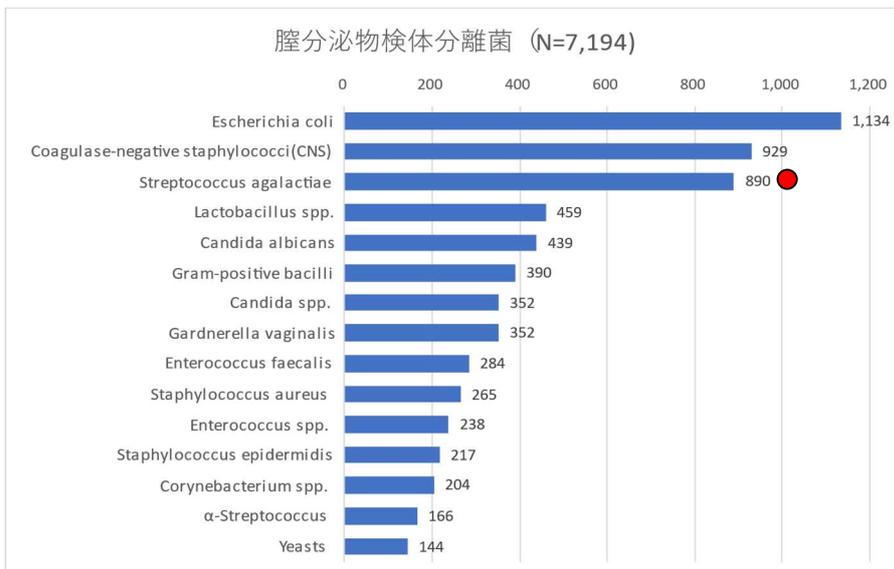
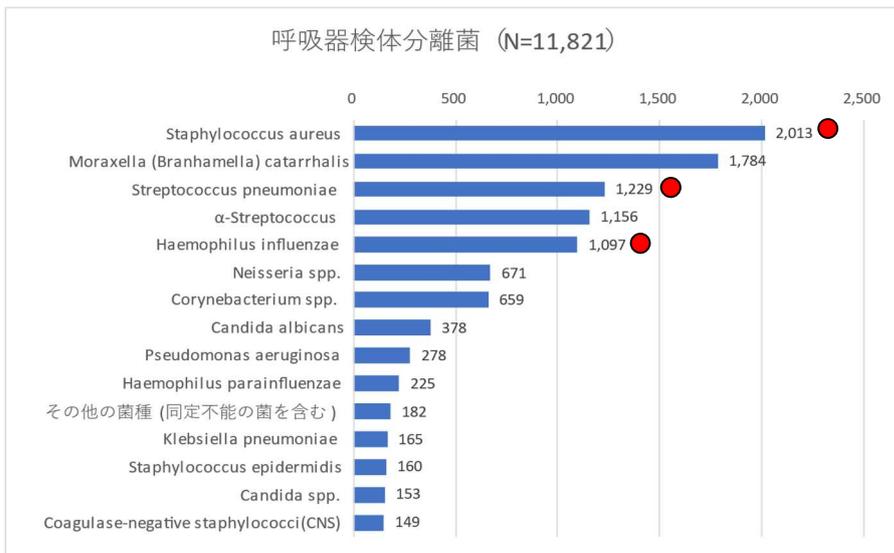
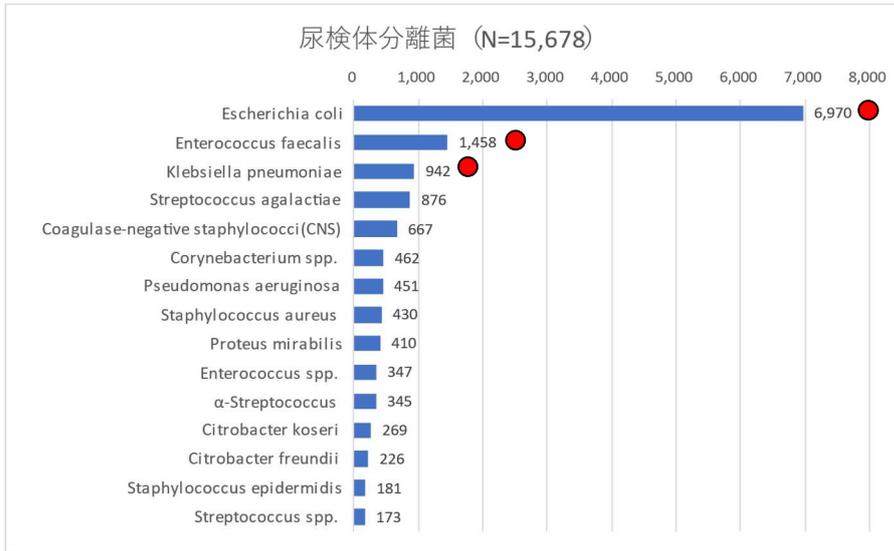
検出頻度が高く、臨床上治療を要する可能性があり、薬剤感受性が重要となる、以下の菌種を集計対象とする。

- 尿検体： *E. coli*、*K. pneumoniae*、*E. faecalis*
- 呼吸器検体*： *S. pneumoniae*、*H. influenzae*、*S. aureus*
- 膣分泌物検体： *E. coli*、*S. agalactiae*

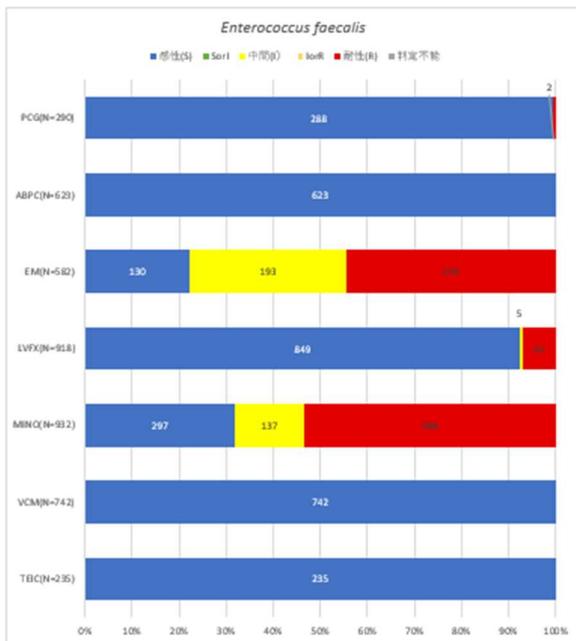
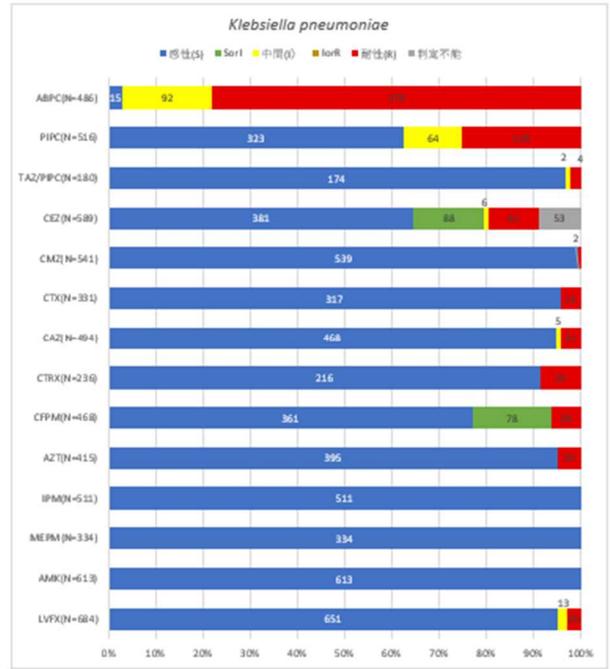
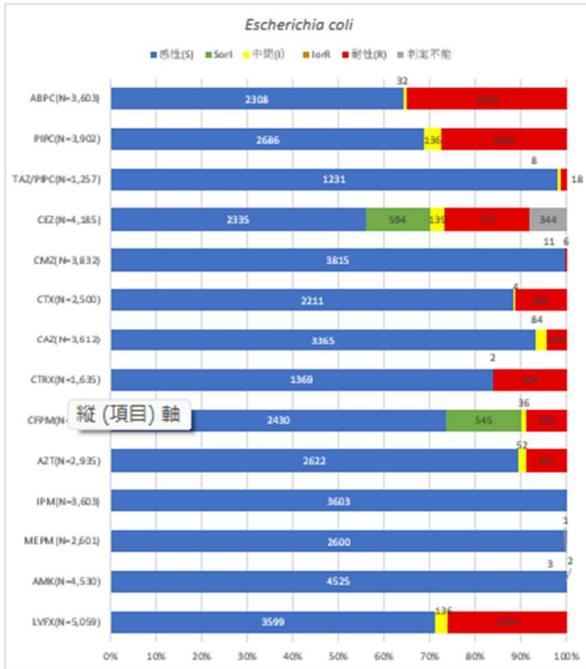
※ (呼吸器検体) *M. catarrhalis* の分離頻度は高いが、抗菌薬耐性が問題となるケース

が少ない、かつ、現行の JANIS 公開情報（検査部門）ではアンチバイオグラム作成の対象となっていないため、対象外とした。

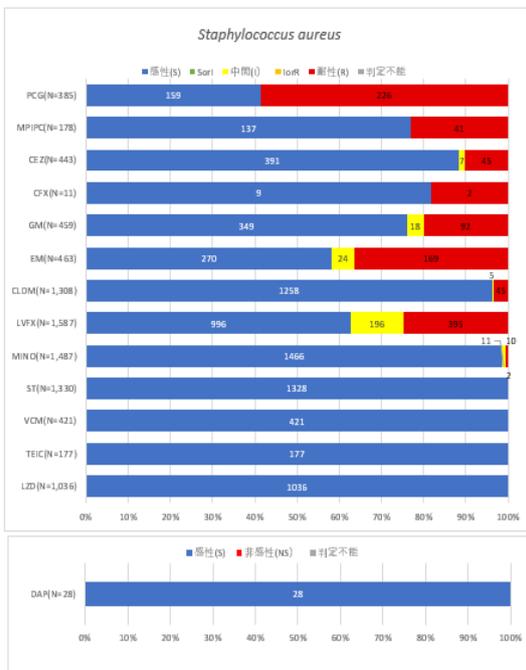
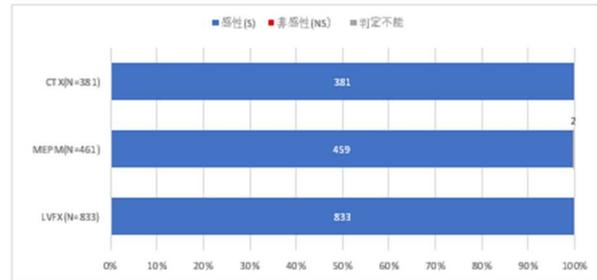
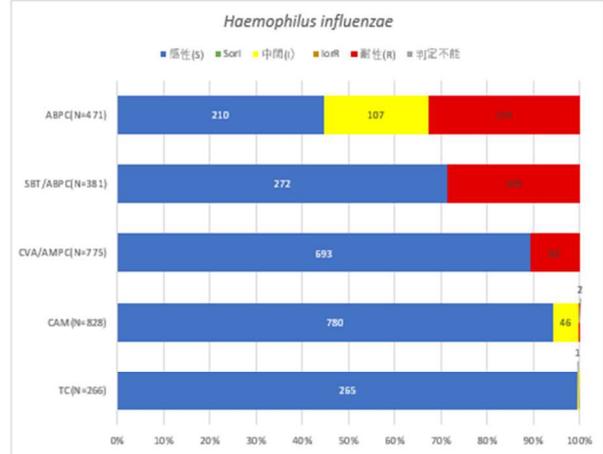
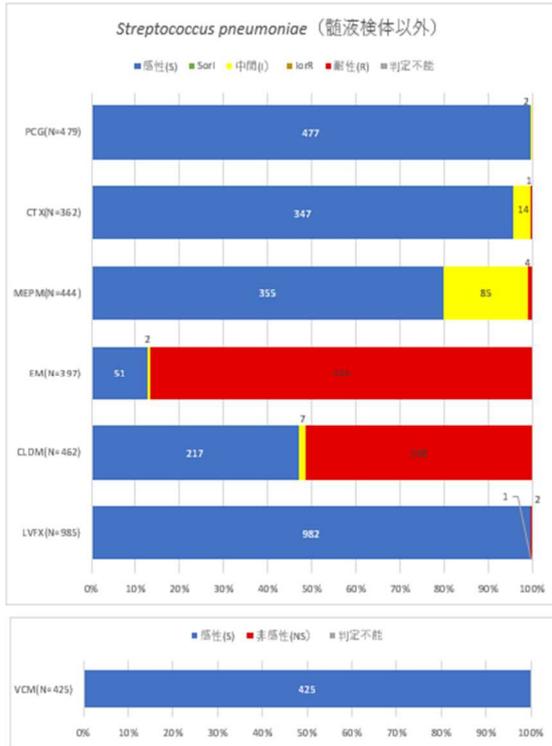
(参考) 分離菌一覧



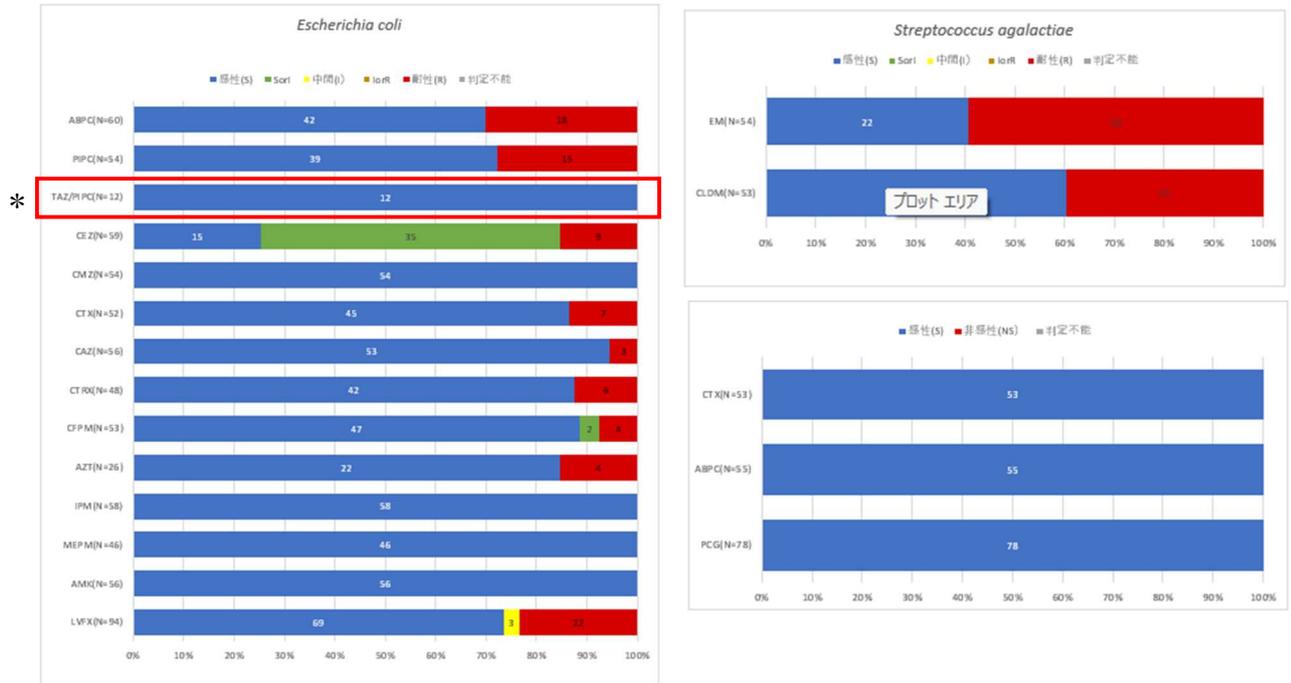
(参考) アンチバイオグラム：尿検体



(参考) アンチバイオグラム：呼吸器検体



(参考) アンチバイオグラム：膿分泌物検体



* TAZ/PIPC (N=12) : N 数の少ない抗菌薬については、「参考値」であることを注釈に記載する。